

アシ原での釣り（春）

東関東支部 菅原 博文

コイのハネ、モジリ、行動水温等を春先から注意深く観察し、「釣れるべくして釣れる」パターンを自分なりに考える。

コイは、水深が浅くて水温の上昇しやすいアシ原へ向かう時、アシの際を通る。コイは本能から毎年の産卵場所を極端に変えることはなく、ほとんどのコイは同じ場所で産卵を行なう。そのような場所を何ヶ所か見つけておき、いつ産卵するかわからないので、ハネ、モジリ、水温等チェックしておくこと。

コイのハネ、モジリが確認できたら変化のある場所を丹念に探り、アシ際と流心を少し外した場所に投げて投入点を探る。アシ際はギリギリに投入すると水面下に隠れた茎に絡みやすい。

春のポイントはアシ際がポイントといっても過言ではない。水の動きが見えにくい所でもよく見ると水が動いているので流れの中の水通しのよい場所をチェックしよう。アシ際はコイにとって絶好の隠れ場所であり、身に危険を感じたらコイはアシの根に潜り込む。シカケに注意が必要である。

情報で後追いする人を見かけるが、「なぜそこで釣れたのか」理由を自分なりに考えてみる。その条件を満たす場所を別のどこかに探せばよい。自分なりの考えを持ってひとつひとつ考えること。日々の積み重ね、「釣れた」から「釣った」へ！！私はわからなければ、春早めに竿を出さなくとも3～4回位コマセを巻き、ポイント作りをしています。

